

★ことわざを文脈の中で正しく使うためには、それぞれのことわざの意味を考え、文全体の意味と照らし合わせるということです。

身に付けると...

日常会話や文章の中で表現が豊かになります！

やってみよう

〔解答と解説〕

- ① 弘法も筆の誤り かつばの川流れ
- ② 猫に小判 寝耳に水
- ③ のれんに腕押し 豚に真珠
- ④ やぶから棒 ぬかに釘



二

(1) ウ

【使用例】失敗しても次があるさ。七転び八起きでがんばろうよ。

(2) イ

【使用例】良薬は口に苦しと言って、自分のためになることは、聞きづらいものだよ。

(3) エ

【使用例】本当に実力がある人は自慢しないよ。能ある鷹は爪をかくすというじゃない。

(4) ア

【使用例】何事もしんぼうして続けていけばいつかは成功するものだ。石の上にも三年というじゃないか。

三

(1) 佐藤君

好きこそものの上手なれ

∴好きであることが上達の重要な条件である。

山田さん

縁の下の力持ち

∴人知れず陰で努力や苦勞をする。

(2) 吉田君、決勝戦まできたからといって油断したらだめだよ。勝って兜の緒を締めよと言うように、最後まで気を抜かずがんばろう。

〔練習〕

◆次のことわざの意味を、あとのアからエの中からそれぞれ一つずつ選んで書きなさい。

- ① 雨降って地固まる ()
- ② 鬼に金棒 ()
- ③ 医者の不養生 ()
- ④ 立つ鳥あとを濁さず ()

解答

- ① イ
- ② ウ
- ③ エ
- ④ ア

- ア 後始末をきちんとして立ち去る。
- イ もめ事の後のほうが、かえって前よりもよい状態になる。
- ウ もともと強い者が、さらに強くなる。
- エ 正しいとわかっていながら、自分では実行しない。